

芸術科（音楽）「音楽Ⅰ」学習指導案

大阪府立〇〇高等学校

1. 日 時 令和5年6月19日（月）第6時限
2. 学年・組 第1学年3.4組（40名）
3. 題材名 「自分のリズムをトラベルカホンで演奏しよう」
4. 題材設定の理由

音価の把握は読譜の基本であり、音符の組み合わせによるリズムは音楽の基本である。リズム創作を通して、自分のイメージした音を視覚化し、楽譜を書くことで音のイメージを持てるようになり、さらに自分で音符を自由に組み合わせることによって生まれるリズムに関心を持ち、創意工夫のある表現活動へ繋がられる知識や技能を養いたいと考え、この題材を設定した。

5. 題材の目標、学習指導要領との関わり

本題材は、高等学校学習指導要領の下記に基づいて構成している。

第2章 第7節 芸術 第2款各科目 第1 音楽Ⅰ 1目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

- ・ 音符の種類や音価、トラベルカホンの音、音を連ねたり重ねたりしたときの響きについて理解するとともに、創意工夫を生かした創作表現をするために必要な技能を身に付ける。

【知識及び技能】

- ・ 音価の組み合わせによるリズムを知覚し、自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫する。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・ 音素材、音価の組み合わせによるリズムに関心を持ち、自分の創作した楽曲を主体的・協働的に楽譜を作成し、演奏に取り組む。【学びに向かう力、人間性等】

6. 教材

教科書 MOUSA1 《楽典》

自主作成プリント

使用機材・ツール：Chromebook・洗足大学オンライン・Flat

7. 教材観

トラベルカホンの高低の2種類の音を使うことにより、リズムのみでも表現の可能性を感じることができる。また4ビート、8ビート、16ビートと変化させる創作をすることによって、多様なリズムを表現でき、創意工夫を生かした個性的な創作作品が期待できる。

8. 生徒観

省略

9. 指導観

現代は、音源が豊富で、楽譜に頼らない学習方法で合唱をしたり、視覚的な補助でリズムを叩いたりすることができる。そのような中であるからこそ、リズム学習を通して、楽譜に慣れ、自らの力で音楽の要素を視覚的にとらえることができる読譜力に関心を持たせるとともに、リズムだけでも創造的な表現の工夫ができ、多様な音楽へ発展していく大切な要素であることを実感させたい。

10. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 音価やリズムについて理解し、楽譜を正確に書いている。 - 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な音符の組み合わせを変化させ、演奏する技能を身に付け、創作で表している。 - 音の高低とリズムとの関わりについて理解している。	音価の組み合わせによるリズムを知覚し、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。	音価の組み合わせによるリズムの変化に関心を持ち、主体的・協働的にリズム学習、創作活動に取り組もうとしている。

11. 題材の指導と評価の計画（全5時間）

●…形成的評価 ○…総括的評価

時	主な学習活動	主な評価規準【観点】・評価方法等
第1時	◇音価について学習する。 ・音符の長さを把握し、オンラインによる音符の計算ドリルにチャレンジする。	各音符の長さを理解している。【知】（観察）●
第2時	◇基本的なリズムパターンを理解し、創意工夫を生かした創作活動に取り組む。 ・プリントのリズムパターン例を学習し、リズムの変化、リズムの働きによる音楽の変化を考え、創作するためのイメージを持つ。	いろいろなリズムを演奏することによって、どのように音楽を表現するか意図を持つことができる。【思】（観察）●
第3～4時 （本時）	◇意図した表現による演奏の実現をめざす。 ・各自で作った作品の楽譜の検証を行う。 ・演奏を録画したり、聴き合ったりして、意見交換やアドバイスを踏まえて修正したり、さらに工夫を加えたりする。	音価やリズムについて理解し、楽譜を正確に書いている。【知】○（ワークシート） 自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。【思】○（ワークシート） リズムに関心を持ち、カホンの演奏を通して、主体的・協働的に創作活動に取り組もうとしている。【主】（観察）●
第5時	◇楽譜を完成させ、自分の意図した楽曲を演奏する。 ・実技テストにより、自分の創作	意図したリズムを表現する技能を身に付けている。【知】（作品の楽譜と演奏の聴取）○ 自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫して

	課題を演奏する。(楽譜は2枚用意する) ◇自分の演奏が意図したものになっていたかを検証する。 ・教員による指摘、アドバイスを 受け、自己の振り返りをノートへ 記入する。	いる。【思】(演奏の聴取)○ 主体的・協働的に創作活動に取り組もうとしてい る。【主】(観察)○
--	--	--

12. 本時の展開

(1)本時の目標 (第4時)

- ・リズム表現による創作課題(楽譜)を完成させる。
- ・楽譜と演奏が一致しているかを検証し、さらにそれが自分の意図したものであるのかを確かめる。
- ・主体的・協働的に創作活動に取り組む。

(2)本時の評価規準

- ・音価やリズムについて理解し、楽譜を正確に書いている。【知】
- ・自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。【思】
- ・リズムに関心を持ち、カホンの演奏を通して、主体的・協働的に創作活動に取り組もうとしている。【主】

(3)本時の準備物

- ・Chromebook、プロジェクター、Flat、プリント

(4)本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
10分 導 入	・共通課題を演奏し、テンポや奏法についての確認をする。	・共通課題でカウントの方法やテンポ設定、カホンの音の高低の区別などに注意させる。 ・楽譜作成にあたっての注意点を提示し、楽譜作成ソフトを使って検証する方法を提示する。 ・創作課題(楽譜)を完成させるように伝え、楽譜の検証の方法を提示する。	・音価やリズムについて理解し、楽譜を正確に書いている。 (演奏の聴取・創作課題プリント)

30分 展開	・創作課題に取り組む。 ・楽譜作成ソフトを活用し、正しく採譜できているか検証する。 ・楽譜を記入し、その楽譜をもとに演奏をする。 ・演奏をしている様子をChromebookで録画して、創作課題を検証する。 ・うまくできた録画は取っておく。 ・友達同士で聴きあい、お互いに評価をしあう。 ・実技テストのリハーサルをする。	・演奏できないリズムは使用しないよう注意する。 ・自分のイメージしたリズムの書き方がわからない場合は、演奏させ採譜する。 ・自分のイメージしたリズムを演奏できているかを客観的に確認させる。 ・正確に演奏できるように繰り返し練習を行うように促す。	・自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。（創作課題プリント） ・リズムに関心を持ち、カホンの演奏を通して、主体的・協働的に創作活動に取り組もうとしている。（観察）
10分 まとめ	・実技テストの手順を確認する。 ・テストまでに練習し準備するための見通しをもつ。	・自分が自信をもって演奏できるようになるまで準備するように伝える。	

「観点別学習状況の評価」の判断基準の設定

	「十分満足できる」状況 (A)	「おおむね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況 (C) と判断される生徒に対する 支援のてだて
知識・技能	自分のイメージしたリズムを正確に楽譜に書き、演奏することができるとともに、創意工夫を生かした創作表現ができている。	リズムパターンを利用しながら、正確に楽譜を書き、演奏する技能を身に付けている。	音価について復習するとともに、正しい楽譜の書き方を提示する。
思考・判断・表現	音価の組み合わせによるリズムを知覚し、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージしたリズムで創意工夫した器楽表現をしている。	音価の組み合わせによるリズムを知覚し、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、基本的なリズムパターンをもとに器楽表現をしている。	基本的なリズムパターンを習得できるように、個別に指導する。